

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	49
学校名	富山県立となみ東支援学校

学校の現状と課題	本校は、知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校である。障害の多様化に加えて、知的障害が軽い児童生徒、自閉症や行動障害等を有する障害が重い児童生徒が在籍しており、障害の二極化も進んでいる。このことから、児童生徒一人一人の心身の調和的な発達を支援していくために、各教科等において育成すべき資質・能力を支える役割を担う自立活動の指導の一層の充実が求められている。	
テーマ(特色)	児童生徒一人一人の学びの充実のための自立活動の指導	
設定した「テーマ」の達成状況	教師が把握した対象児童生徒の実態の解釈や改善が必要だと考える課題の解決に向けた指導・支援の方法等について外部講師から指導助言を受けたこと、さらに、課題の解決に有効な教材等を購入、活用したことで、自立活動の指導を一層充実させることができた。	
実施内容 (具体的に記入する)	<p>○外部講師の招へい 富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの言語聴覚士、作業療法士を招へいし、対象児童生徒の摂食・嚥下、発語、感覚、動作に関する機能について、様子観察及び直接指導を受けた。併せて、教師が把握した対象児童生徒の実態の解釈や改善が必要だと考える課題の解決に向けた指導・支援の方法、課題の解決に有効な教材等について、指導助言を受けた。また、その様子を動画で記録して共有し、指導実践の参考とした。</p> <p><言語聴覚士による様子観察・直接指導、指導助言> ・対象児童生徒:小学部3名、中学部3名 ・主な指導助言:スプーン上の食べ物を上唇も使って取り込む動作の促し、唾液の嚥下や口唇の閉鎖を促すアプローチ、応答や依頼の際の意図的な発声の引き出し、発音の明瞭さを高めるための支援、など</p> <p><作業療法士による様子観察・直接指導、指導助言> ・対象児童生徒:小学部3名、中学部2名 ・主な指導助言:自己刺激行動の代替となる行動、感覚過敏に対するアプローチ、実態に即した運動課題、両手の協応と手指の巧緻性を高める指導、など</p> <p>○教材等の購入、活用 課題の解決に有効な教材等を購入し、活用した。(括弧内は指導目標に関連する自立活動の内容) ・おもいブランケット(心理的な安定、環境の把握)、SST2択展開カード(人間関係の形成、コミュニケーション)、歯磨指導顎模型(健康の保持)、ミニハードル(身体の動き)、など</p>	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>○言語聴覚士、作業療法士からの指導助言は、教師が把握した対象児童生徒の実態をより専門的に解釈したり捉え直したりすることにつながった。的確な実態把握に基づいて、適切な指導目標(ねらい)や具体的な指導内容を設定したことにより、学習する児童生徒が主体となって課題の解決に向き合おうとする姿が見られた。</p> <p>○課題の解決に有効な教材等を購入し、活用したことにより、以下の成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいブランケットにくるまることで適度な重みを感じることができ、リラックスして過ごす様子が見られた。 ・SST2択展開カードを用いた活動において、自分が経験した場面を客観的に振り返る姿が見られた。また、感情のコントロールに課題のあった生徒が、物事を冷静に考えることの大切さに気付く姿も見られた。 ・鏡に映る歯の表側のみを磨いていた生徒が、歯磨指導顎模型を用いた学習を通して、奥歯のかみ合わせ部分や歯間も意識して磨くようになるなど、歯磨きと口腔ケアに対する自己管理能力に向上が見られた。 ・ミニハードルの安定性と適度な高さが安心感につながり、ハードルをまたぎ越す活動に意欲的に取り組む姿が多く見られた。また、繰り返し取り組むことで、当初よりも短い時間でハードルをまたぎ越すことができるようになるなど、日常生活に必要な移動能力に向上が見られた。 	
対象者(学年・人数など)	全学部児童生徒12名、教職員16名	
実施実績	4月	児童生徒の実態把握と指導すべき課題の整理
	5月	講師選定
	6月	指導実践 教材等の選定・購入
	7月	↓ ↓ 言語聴覚士による様子観察・直接指導、指導助言
	8月	↓ ↓
	9月	↓ ↓
	10月	↓ ↓
	11月	↓ ↓ 作業療法士による様子観察・直接指導、指導助言
	12月	↓ ↓
	1月	実践のまとめ
2月		
3月		